

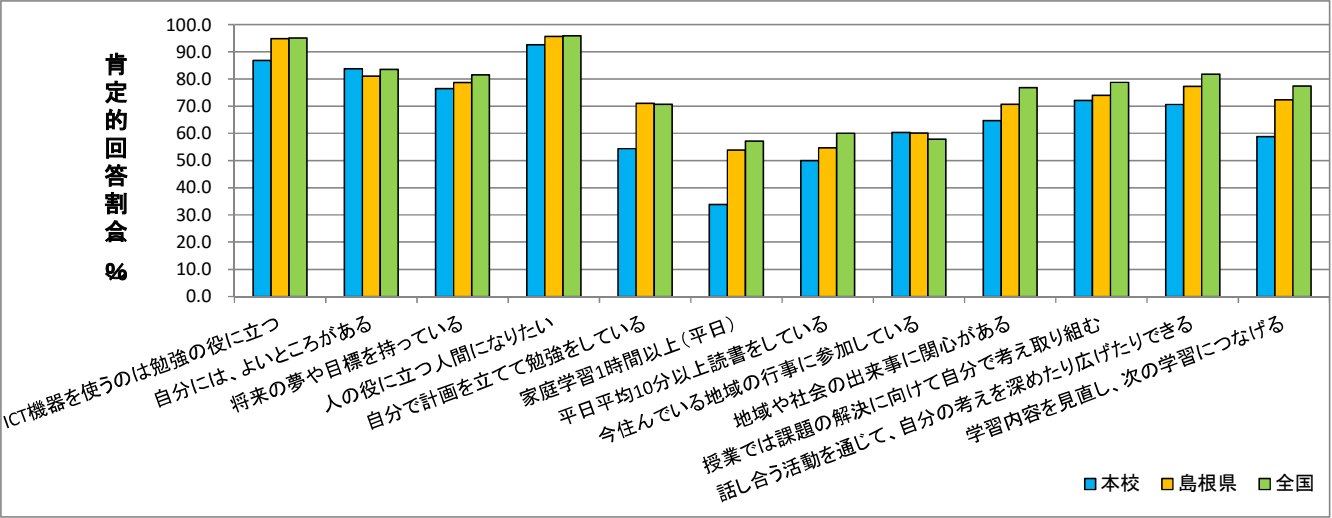
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○中心となる言葉や文を見つけて、要約する問題の正答率が他の問題と比較して高い。 ●話の内容をとらえて、自分の考えをまとめて記述する問題の正答率が低い。	・自分の考えをまとめて記述する活動を単元の中で計画的に取り入れる。
算数	○百分率(%)で表された割合の問題の正答率が他の問題と比較して高い。 ●基本的な力が定着していない児童の割合が高い。 ●図形領域の問題の正答率が他の問題と比較して低い。	・基礎的な力が身に付くよう、復習やミニテスト、月に1回実施する「計算オリンピック」等を継続して行い、指導の充実を図る。

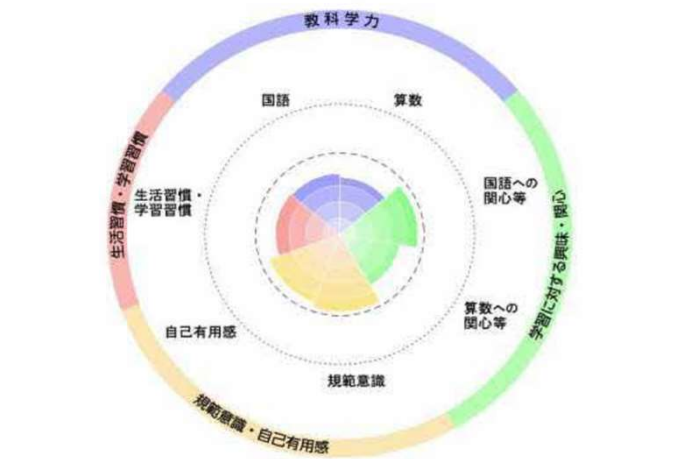
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自分にはよいところがあると思っている児童の割合が高い。 ○国語の勉強が好きと答えた児童の割合が高い。 ●平日・土日に1日当たり1時間以上家庭学習している児童の割合が低い。	・家庭学習の習慣が定着するよう、家庭での過ごし方について学校だよりや学級懇談会、学校運営協議会、PTAなどと連携した啓発の取組を充実させる。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・国語科を中心に「個別最適な学び」を展開し、学習進度や学習方法・内容など自分で選択する機会を増やし、課題解決に向けて実行する力をつけることができるよう指導の充実を図る。
- ・学級における居場所づくり等の取組を通じ、児童の自己有用感を育てるとともに、児童が自己の良さと課題に気づけるような取り組みを行い、自尊感情の育成を図る。

【受検者数】

68 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。